

第 4 回 駅まちデザイン検討会 議事概要

日時：令和 3 年 3 月 3 日（水）10:00～12:00
場所：パレスサイドビルディング 8 階会議室
（オンライン（ZOOM）&オフライン併用）

1. 開会・挨拶

【都市局街路交通施設課長より挨拶】

2. 議事

（1）第 3 回検討会において出された意見について

【事務局より資料 1 に沿って説明】

（2）検討会の今後の進め方について

【事務局より資料 2 に沿って説明】

（3）駅まちデザインの手引き（素案）の検討について

①第 3 回検討会での意見と対応方針

【事務局より資料に沿って説明】

②駅まちデザインの手引き（素案）

【事務局より資料に沿って説明】

3. 意見交換

【駅まちデザインの手引き（骨子）及び（素案）について、出席者間において意見交換。】

【駅まちデザインの手引き（骨子）について】

○骨子にも図表やダイアグラム等を入れてイメージしやすいものにした方が良い。

○骨子の内容はあまり新しさを感じる内容にはなっていない。手引きで伝えたいことをもう少し入れ込む必要がある。

【駅まちデザインの手引き（素案）について】

○空間デザインに関して、パブリック・オープンスペース等は「これからの時代に求められる新たな視点」等も踏まえて、ニーズの変化がある可能性を意識することについて触れておいた方が良い。

○駅まち空間における一体的な都市アセットについて、シェアリングモビリティや、実験的スペース、SaaS 等ソフト面での連携など、新たな機能・サービスが行われることについても表現した方が良い。

○「空間の共有」と「機能の連携」について、駅広隣接地区について、まちなか居住を進めるなどの事

業のイメージを補足し、駅前広場と周辺市街地をつなぐ重要性について説明を追加した方が良い。

- 多様な主体の連携による駅まち空間のデザインを進めるにあたり、市民などがサービスを受ける側としてだけでなく、主体的にまちづくりに関わる重要性についても触れるべきではないか。
- 駅まちデザインの実現には計画・整備・運営まで長い期間がかかるため、プロジェクトマネジメントにおいて、期間を通じてよりどころになるような法定計画などの制度の活用を通じて、時系列ごとに各主体がどのように連携していけば良いかわかりやすい事例の紹介があると良いのではないか。
- 事業手法、支援制度等について、やわらかく使い方を解釈している事例や、都市計画等の計画制度と事業手法をパッケージ化することで実現されている先進事例や通知等を複数例示し、事業手法、規制緩和、支援制度等を組み合わせて使いこなすことへの意識の重要性を表現できないか。